

認定品種候補 水稻「えみほころ」の品種特性

埼玉県農業技術研究センター

1 品種概要

(1) 来歴

中晩生・イネ縞葉枯病抵抗性・高温登熟耐性をもつ良食味品種を育種目標として、平成24年に「とちぎの星」を母親、「さ906（彩のかがやき/東北192号のF₆系統）」を父親として人工交配を行った組合せから育成した中晩生の水稻粳種である。令和4年7月26日に出願公表された。

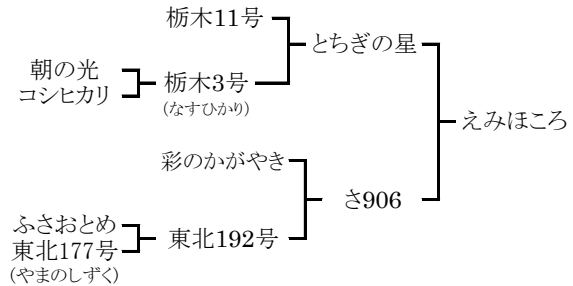


図1 系譜図

(2) 特徴（「彩のかがやき」との比較）

- ・ 出穂期は3～5日、成熟期は6～10日早い。
- ・ 稈長は、早植は同等、普通期は7cm長く、穂長に差は無く、穂数は1株当たり1～2本少ない。
- ・ 千粒重は1～2g重く、収量は早植では同等、普通期ではやや多収である。
- ・ 高温登熟性が「強～やや強」であることから、玄米品質は、登熟期間が高温に経過した早植においても白未熟粒は少なく、整粒比が高い。
- ・ 食味は同等以上であり、アミロースはやや低く、粗蛋白質は同等である。
- ・ イネ縞葉枯病は同様に抵抗性であり、穂発芽性は1ランク低い「難」である。

(3) 栽培上の留意点

- ・ 高温登熟性は優れるが、登熟期の栄養不足は白未熟粒の発生を助長する。また、耐倒伏性は「強」であるが、過剰な施肥は倒伏を助長し、品質や食味の低下を招くため適正な施肥管理に努める。
- ・ 紋枯病は「彩のかがやき」並、いもち病は「彩のきずな」並に発生するため、多発が予想される条件の際には、適宜防除を行う。

2 県内の普及状況等

「えみほころ」は中晩生熟期であることから、いずれの作型においても栽培が可能であり、高温による品質低下やイネ縞葉枯病の発生が多発している地域において有利性が期待できる。

令和4年は90aの実証ほを設置した。次年度以降も実証ほを拡大し、生産者、実需者評価を得ながら、種子生産に取り組み、普及に向けての準備を進める。

3 具体的データ

表1 奨励品種決定調査結果(令和元～3年)

作期	品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	倒伏 程度	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄 米重 (kg/ 10a)	千粒 重 (g)	穀粒判別器		
										整粒 (%)	白未熟 粒(%)	その他 未熟粒(%)
早植	えみほころ	8. 4	9.13	0.0	81	21.4	386	586	21.7	60.4	7.9	26.7
	彩のかがやき	8. 9	9.23	0.0	81	21.2	416	585	19.8	49.2	21.7	23.5
普通期	えみほころ	8.20	10. 3	0.0	82	21.8	317	512	21.8	74.1	2.2	13.4
	彩のかがやき	8.23	10. 9	0.0	75	21.4	341	494	20.9	71.3	9.5	11.6

注)移植期は早植5月13～14日、普通期6月21日。

施肥量(窒素成分.kg/10a)基肥5、中間肥2(彩のかがやきのみ)、穂肥3。倒伏程度は無:0～甚:5の6段階評価。

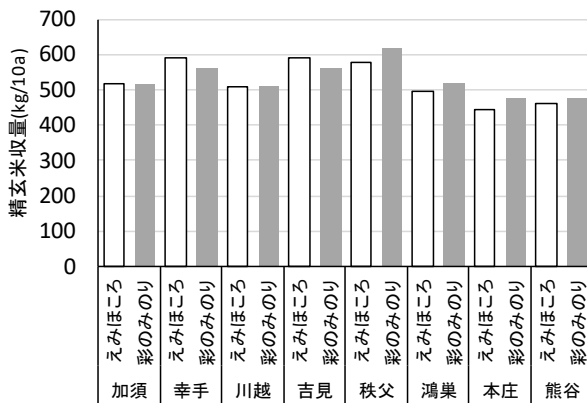


図2 奨励品種決定現地調査収量

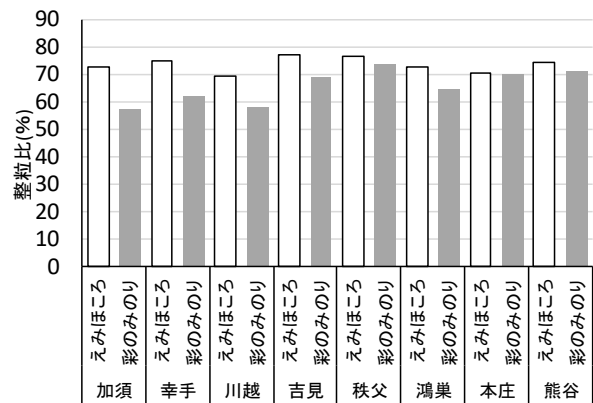


図3 奨励品種決定現地調査玄米品質

注)図2,図3とも令和元～3年の平均値。

奨励品種決定現地調査では、同熟期の品種との比較としていることから「彩のみのり」を供試した。

表2 食味官能試験結果

年産	作期	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ
令和2	早植	0.00	-0.14	0.38 *	0.05	-0.10	-0.33
	普通期	0.08	0.56 *	-0.32	-0.08	0.36	0.00
令和4	早植	0.50 *	0.33	0.17	0.39	0.22	-0.11

注)食味試験の方法は日本穀物検定協会の方法に準ずる。

*は5%水準で有意差があることを示す。

基準品種は「彩のかがやき」。

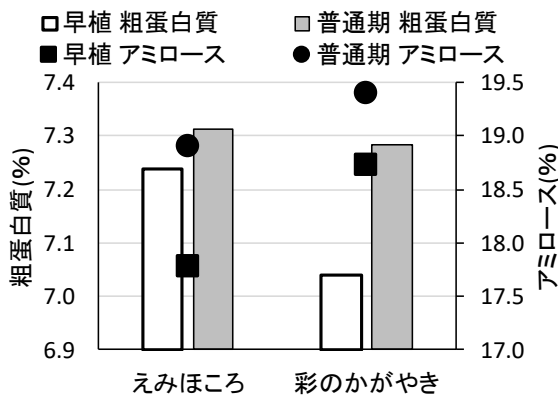


図4 精米の理化学成分



写真1 玄米外観品質